

# 平成29年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第2分科会

道志村立道志小学校

校長 藤巻 豪

## 『一体型校舎をいかした道志小・中連携』

～はじめの一步～

### 1. 本校の概要について

道志村は東西に国道413号線が走り、西は山中湖村、東は神奈川県につながっている。村は東西に長い形をしており、道志七里と言われるとおり、その長さは東西約28kmである。国道413号線沿いには大小様々なキャンプ場があり、全国的にも有名なキャンプ場密集地となっていて、夏には多くの人でにぎわう。道志川は清流として有名であり、明治30年から横浜市の水源地となっている。魚釣りのシーズンには鮎、ヤマメ、イワナ等を求めて多くの釣り客が訪れる。現在、2020年東京オリンピックの自転車ロードレースのコース候補地として名前があがっており、オートバイ、ロードバイク等の交通量も増えている。

道志小学校としての歴史は長いですが、本校は、平成11年、道志小学校、唐沢小学校、善之木小学校の3校が統合し、新生道志小学校としてスタートしている。平成25年には、これまで使用していた小学校の校舎に耐震上の課題があったこと、また敷地が土砂災害特別警戒区域となっていたことから、移設が検討されることとなった。平成26年には校舎整備検討委員会の答申として、中学校敷地に地元の木材を利用した小中一体的な校舎として建て替えることが示された。

平成29年4月から、道志中学校と同じ敷地で、小中一体型の校舎での学校生活が始まった。(中学校は27年12月から使用)多目的ホール、図書室、PCルームを校舎の中央に配置し、小中で共用する。また、体育館、グラウンド、プールについては、一つの施設を小中で使用している。

全校児童は69名で、全学年1クラスである。特別支援学級は、知的と自閉症・情緒の2学級があり、全部で8学級となっている。教職員数は、村費負担教職員も含め16人である。

### 2. 学校の特徴について

#### (1) 学校教育目標

「確かな学力 豊かな心 健康な体 郷土愛」

#### (2) 重点をおいた取組

##### ① 保護者と連携した家庭学習

家庭学習の手引きを配布し保護者と協力関係を構築するとともに、活用の推進を図っている。夏季学習会には保護者ボランティアとして協力を依頼している。

##### ② 学校生活上のルール(七里っ子の約束)の全家庭配布、教室掲示

年度当初の学年部会で説明し、学校と家庭において指導の共有化を図っている。また、児童会の活動とも連携させ、子ども達の主体的な取組にしている。

### ③全職員がかかわる児童の情報交換

学校部会（生徒指導・特別支援）で定期的に協議を行っている。

### ④運動の日常化と遊びの日常化による体力向上

体力テストの結果を踏まえ、日常的に持久力を高める運動として、業間にランニングやなわとび等の運動を実施している。取組の成果を発揮する場として、マラソン大会も実施。また、放課後の遊ぶ時間の確保に努めている。

### ⑤生活科，社会科，総合的な学習の時間等の学びの発表の場を設定

学習に目的意識・相手意識をもたせるため、業前の時間「七里っ子タイム」に学年ごとの発表の機会をつくっている。また、道志村郷土学習を夏季休業中の課題とし、ふるさと山梨郷土学習コンクールへ出品している。

### ⑥地域文化を伝承する郷土芸能「東富士七里太鼓」

6年生の地域学習として設定し、外部講師（東富士七里太鼓保存会）による指導を受けている。秋季大運動会において披露している。



### ⑦横浜市との交流と体験的な活動をととした郷土学習の推進

横浜市立万騎が原小学校の4・5年生を村に迎えて、道志小の4・5・6年生との交流会を行っている。また、道志小5年生が1泊2日で万騎が原小学校，横浜市を訪問。横浜市の浄水場（川井浄水場），マリンタワー等諸施設を見学し，横浜市と道志村の関係について理解を深めている。村内にある横浜市水道局水源林管理事務所との連携により，水源林の見学（4年生）と間伐体験（5年生）水源を守るポスターコンクール（4・5・6年生）を実施している。



### ⑧情報教育・ICT活用・環境教育の充実

全教室無線ランが整備され，i-Pad，タブレットPC を活用した学習が可能となっており，児童の操作技能の向上を目的に，「県立大学 i-Pad 出前授業」（4年生）を行っている。環境教育では，自然豊かな環境をいかした体験的な学習として，漁業協同組合との連携による「フィッシング体験」（4年生）やキャンプ（5年生），山登り（春の遠足，秋の遠足）なども行われている。

## 3. 小中連携の取組

### (1)「道志村教育協議会」

道志村教育協議会は道志村の小中学校の職員で構成し，道志村の教育の推進と会員の研修・親睦を目的としている。目的達成のための事業として，「教育条件整備」「各校の連絡調整」「研究の推進と交流」「職員の親睦」を行っている。

組織は研究部，文化部，生活部にわかれて活動している。

<p>「研究部」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○研究</li><li>・交流授業</li><li>・親睦レク</li><li>○事務</li><li>・予算</li><li>・事務事例マニュアル作成</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○保健</li><li>・保健指導</li><li>・食生活指導</li><li>・歯科指導</li></ul>	<p>「文化部」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・図画，書き初め作品展</li><li>・文集『山の子』作成</li></ul>
		<p>「生活部」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・長期休業中の生徒指導</li><li>・盆踊りパトロール</li><li>・学校生活のきまり</li></ul>

道志村内の小中学校の連携の歴史は古く、道志村教育協議会を中心に継続して行われてきている。小中学生の作文を各年度でまとめた文化部の文集「山の子」は平成28年度で51冊（51年）を数えている。平成28年度の活動では、小中学校で行われた授業研究会への相互参加、小学校6年生の中学校の授業参観、小中学校のつながりを意識した各種保健指導、食生活指導、図画、書き初め大会、文集の作成等が行われている。

昨年度は、小中一体型の新校舎の生活に向けての準備の年でもあり、「小中学校の日課時程」「チャイム・放送の使用法」「多目的ホール、体育館、図書室、PCルーム、グラウンド等の共有施設の管理・使用法」といった新校舎での生活に向けた各種調整も、この組織を利用して行われた。

このように、道志村教育協議会は、小中一体型校舎で新たにスタートする小中連携の取組の基盤となるものである。

## （2）平成29年度小中一体型校舎での連携のスタート

### ①道志村教育大綱（平成28年3月）

#### 小中連携教育の推進（一部抜粋）

小中学校校舎の建築が完了した後、本格的な小中一貫教育に関する取り組みを行うことが可能となります。これまで以上に小中連携教育の推進を行い、年齢間での学習、運動、遊び等を通じて情緒ある生徒児童の育成に努めます。

### ②平成29年度 道志村の学校教育の指針

#### 小中学校連携事業の推進

- ・平成29年度小中学校一体型校舎スタート年度における小学校、中学校、共有スペース等、生活空間のすり合わせ強化に努める。
- ・小学校年間行事、中学校年間行事における小中連携の協議推進に努める。
- ・一体型校舎整備が実施され今後の学校施設の在り方について、小中学校段階の教職員が9年間を通じて実現したい教育目標を共有し、一体的な組織体制作りを推進する。

### ③平成29年度 小中連携に向けての基本的な考え

これまでも道志村教育協議会において小中連携の取組が熱心に行われてきていたが、それぞれの校舎の間には2kmの距離があり、連絡にしても交流にしても多少手間のかかるものであった。この4月からの小中一体型の校舎での生活は、小中連携を行う際の道志小学校、中学校の大きな強みである。児童生徒、教職員が同じ敷地、一体型の校舎で常に顔を合わせてお互いの教育活動を間近に見ながら生活している。そこには無意識のうちに様々な交流が生まれ、児童生徒、教職員の心の中に良い影響をあたえていくであろう。このこと一つとっても大きな価値があるように思う。小中の職員間の連絡や児童生徒の交流も簡単に、気軽に行うことができるようになった。学校規模も小さく、行動を起こす際のフットワークも軽い。小中学校のスムーズな接続・連携をするためには、これらの強みをいかして、まずは職員・児童生徒の交流を盛んにし、お互いを知り合い、理解し合うことが重要だと考えている。その上で、今年度は、一体型校舎の特徴をいかしながらどのような活動ができるかを考え、可能なものから実行に移していくこととした。年間の行事予定等について

は、小中学校それぞれが独自の計画を立てているので、とにかく日々の活動を進めながらすり合わせをしていくことになる。以下の点は連携を検討していく上での配慮事項である。

- ・新校舎での教育環境の整備，共有スペース等の効率的，効果的な活用をめざす
- ・小中一体型の校舎を活用し，児童生徒，教職員，保護者の交流の機会を増やす
- ・道志村教育協議会のこれまでの取組を継続，発展させる
- ・小中学校の年間行事をすり合わせながら，連携，交流の推進に務める
- ・小中学校が大切にしているものやそれぞれの良さを生かし，今，それぞれが行っている活動をベースにした交流を考える
- ・児童生徒，教職員の声をいかす
- ・学校が楽しくなる交流を考える
- ・小中学校が連携することで，効率化が図れる交流を考える
- ・「一緒にやってみましょう」と気軽に声をかけられる関係づくり，無理な場合は気軽に断れる関係づくりをすすめる
- ・まずはやってみることで，一度やったから次年度も必ず継続しなくてはという発想は持たないこと，良いものは続ける，だめならやめるという考え方でよい

#### ④小中連携に関係する組織

小中連携の推進のために新たに立ち上げた組織は特にない。以下に示す既存の組織がそれぞれの立場で考えを出し合ったり，これまで進めてきた連携を継続・発展させたり，お互いに連携をとりながら活動を進めたりしている。連携にむけての具体的なアイデアについては，道志村教育協議会で話し合いを行うこととしたが，各校の職員会議等の組織，校務分掌，学年等でも連携を意識したアイデアを自由に出し合うようにしている。気軽に簡単に実行に移せるような内容のものは，各校の管理職が相談し，職員にも確認したうえで随時行うようにしている。

なお，今年度は，小中連携について学ぶ場として，県教委で主催する小中連携研究協議会に参加している。

- ・小中運営委員会（村教育長，課長，小中学校管理職）
- ・保小中連絡委員会（教育委員会，小中管理職，保育所，住民健康課，保健師等）
- ・村内保健会（住民健康課，教育委員会，保育所，養護教諭，栄養教諭等）
- ・道志村教育協議会（小中学校職員）
- ・小中各校の校内研，職員会議
- ・小中学校各PTA
- ・小中合同職員会議（小中学校職員）

#### ⑤平成29年度のこれまでの取組，および今後の交流・連携

##### 【小中学校対面式 5月17日】

小中学校の児童会，生徒会が企画をし，多目的ホールにおいて対面式を行った。小学生からは，中学生と楽しむための「猛獣狩りにいこう」という人数集めゲームが提案され楽しいひと時を過ごした。また，中学生からは校舎の使い方についての注意事項についての説明がされ，真剣に話を聞く小学生の姿が見られた。

式のはじめの頃には，中学生の大きな体，大きな声に圧倒され，小学生はとても緊張して，固まってしまったような様子が見られたが，次第に慣れて楽しく交流することができた。また，小学校1年生を間近でみた中学生からは，「こんなに小さいんだ」



「かわいい」という声が聞かれたり、小学生とのゲームに、やや照れながらも一緒に活動したりする様子が見られた。

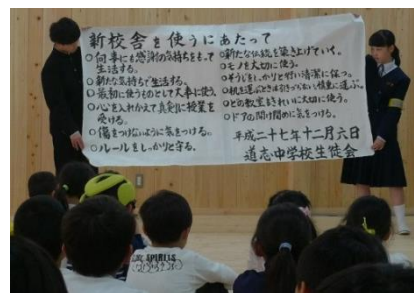
この対面式を行って、小学生、中学生、教職員それぞれに大きな学びがあったことを感じている。

小学生にとって、中学生のお兄さんお姉さんから説明を受けた校舎の使い方の注意事項は、心に強く残るものであった。各教室に戻ってから、「消しゴムのかすは落とさないようにしよう」「机やイスは引きずらないようにしよう」といったことを意識して生活する様子が見られた。日常生活の中では先生方が指導している内容であるが、中学生からの指導ということに新鮮さや先輩から後輩への教えという価値を感じた。また、中学生のしっかりした姿、優しく接してくれる姿を見ることにより、あんな中学生になりたいというあこがれも生まれてくるように思う。

中学生にとっては、普段接する機会の少ない小さい子ども相手に、どのように話をし、どのように説明したらより伝わるかということを経験する機会となった。また、小学生を前にして、しっかりとした態度を見せなくてはという意識を育てることもつながっている。

さらに、小中学校の教職員にとっては、中学生の大人びた態度や説明に「中学生はあそこまでできるのか」という驚きを感じたり、小学生の生き生きとした姿や素直な表現に感心したり、それぞれの発達段階、成長の様子を確認するよい機会となった。

式の終わりには中学校の生徒会長さんから「これからも図書の読み聞かせや給食を一緒に食べる機会をつくるなど、いろいろな交流をしていきたい」という自主的な提案がされた。



### 【七里っ子まつり（児童会行事） 6月28日】

小学生が児童会行事として実施している「七里っ子まつり」に中学生を招待した。中学生や中学校の先生方も参加し、児童の準備した「魚釣り」「ボウリング」等のゲームを楽しんでくれた。中学生がお客様として来てくれたことによって、「子どもたちの活動意欲の高まり」「お客さんをより意識した説明や発表」など学習の場としての効果がより高まった。



中学校の校長先生からは、学校だよりにおいて以下のような感想を寄せていただいている。

「児童会からの招待を受け、中学生と先生たちが休み時間を利用して参加しました。短い時間でしたが、魚釣りやボウリング、もぐらたたきなど、手作り感満載のアトラクションを楽しみました。小学生の熱烈な歓迎を受け、最初は恥ずかしそうにしていた中学生ですが、実際にやってみると時間を忘れて夢中になっていました。小学生の生き生きとした姿に触れ、たくさんの刺激をもらいました。同時に、小学生の企画力、運営力に感心しました。こうした小さな交流を積



み重ね、両校の大きな財産にしていきたいと思います。」

七里っ子まつりについては、当初は小学生のみで開催の予定だったが、交流にかかる負担もほとんどなく実現可能だということから、児童会役員が中学生に招待状を配布し、参加の呼びかけを行った。児童会、生徒会の担当からは、「集会に向けての準備がある程度進んでからの決定だったため、運営上の課題が少しあったものの、結果としては十分な成果が得られる内容であった。今後若干の修正を加えながら次年度以降も続けていきたい。また、他の活動でも可能な交流を進めていきたい。」という意見が寄せられている。

### 【その他の活動・今後に向けて】

上記のほか、これまでに行ってきた活動（◎）、また、夏休み中に実施した道志村教育協議会等において出された小中連携のアイデアで、今後実施または実施に向けて検討してくもの（○）を以下に示す。

- ◎○ 図書館使用のルール作り、9年間の図書指導計画の作成
- ◎ プール開き
- ◎ P T A 奉仕作業の連携
- ◎○ 授業交流
- ◎○ P T A と連携した生徒指導の見回り、生活のきまりのすり合わせ
- ◎○ 生活習慣の改善と生活習慣病の予防、親子料理教室、歯の保健指導
- ◎ 遊具の落成式
- ◎ 学園祭・運動会のプログラムの配付、交流
- 食育の各校一実践における小中合同の集会、指導、交流給食
- ◎○ 6年生を中学校につなぐS Cの活用
- 外国語活動の連携
- マラソン大会の合同開催
- 児童会、生徒会行事、委員会の連携（合唱、太鼓、集会等）
- 9年間をみすえたI C T教育、校務支援システムの導入活用、H Pの作成
- 一体型校舎における事務の連携
- 合同避難訓練、P T A行事の連携
- 6年生への出前授業、中学校での生活、学習体験
- 9年間をみすえた家庭学習の手引きの作成
- 郷土学習を意識した生活科、総合的な学習の時間の9年間の計画作成

上記の中には、2学期以降の取組となるもの、次年度の年間計画に反映させていく取組、さらには数年かけて実践していく内容も含まれている。今後新たに生まれてくるアイデアもあるであろう。一つ一つの活動について、実施・評価・改善を繰り返しながら、よりよいものにしていきたいと考えている。教職員の多忙化が大きな問題となり、改善に向けての取組も求められていることから「少しの工夫で大きな成果が得られる」「連携することによって、より効率的に進めることができる」「忙しくとも、多忙感を感じることなく取り組める」といった視点も大切にしていきたいと思う。

現在、道志村では、移住希望者を積極的に受け入れていく活動も進められている。そういった意味でも、木の香り溢れる小中一体型の新しい校舎と、そこで行われる小中学校の教育がより魅力的なものとなるよう、小中学校のこれまでの実践を大切にし、お互いの良さをいかす連携に努め、職員一同、努力していきたいと考えている。